

# Aプログラム「バウスを巡る映画たち」

## エル・トボ

新作「リアリティのダンス」やドキュメンタリー映画「ホドロフスキーのDUNE」の日本公開が2014年初夏に控える同監督作品もバウスの定番。古くは1987年、近年は2013年に上映。1969年/メキシコ/123分/BD 提供:ハビネット 監督・脚本:音楽・出演:アレハンドロ・ホドロフスキー ©ABKCO Films. All rights reserved. Reprinted by permission.

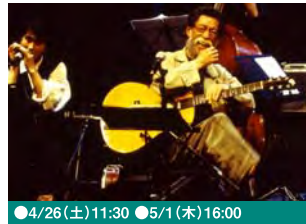
ホドロフスキー監督によるトークショー有



●4/26(土)15:30

## タカダワタル的

2005年4月30日公開作品。かつて吉祥寺の顔と言えよこの人だった。惜しくもバウスシアターの公開初日の4日前に高田渡が逝去。2003年/日本/65分/35mm 提供:アルタミラピクチャーズ 監督:タナドユキ 出演:高田渡、柄本明、松山幸一、中川イサト ©2003アルタミラピクチャーズ



●4/26(土)11:30 ●5/1(木)16:00

## 注目すべき人々との出会い

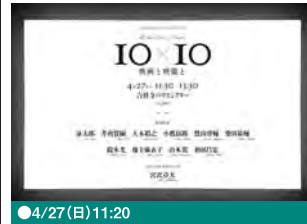
1984年6月公開作品。原作者クルジェフの神秘思想を国内外多くの文化人・ミュージシャンが支持したことも相まって異色作ながらも大ヒットを記録。その後の上映機会が少ない幻の1品。1979年/イギリス・アメリカ/110分/35mm 提供:アダンソニア 監督:ピーター・ブルック 原作:G.I.クルジェフ/出演:ドラガン・マクシモヴィッチ、テレンス・スタンプ、ウォーレン・ハッチェル ©1989 by REMAR PRODUCTIONS, INC.



●4/26(土)13:05 ●4/28(月)11:00

## THE LAST BAUS × TERATOTERA 10×10〜映画と映像と〜

現代美術家10名による映像とアートを巡る全て新作の短編集。中央線アートプロジェクト TERATOTERAとバウスのコラボレーションも3回目にしてこれで見納め。2014年/日本/100分/BD 協力:TERATOTERA/東京文化発信プロジェクト 参加作家:泉太郎、井出賢嗣、大木裕之、小籠拓郎、瀧山啓輔、柴田祐輔、鈴木光、地主麻衣子、山本篤、和田昌宏 上映後、参加作家と宮沢章夫(演出家・作家)によるトークショー有



●4/27(日)11:20

## 鉄コン筋クリート

2006年12月23日公開作品。吉祥寺に本社を構えるアニメーション会社スタジオ4℃が製作。バウスでは他の4℃作品『アーテュ姫』『マインド・ゲーム』『Genius Party』なども上映した。2006年/日本/111分/35mm 提供:アズミック・エース 監督:マイケル・アリアス/原作:松本大洋 声の出演:二宮和也、蒼井優、伊勢谷友介 ©2006 松本大洋/小学館、アニメックス、アズミック・エース、Beyond C



●4/27(日)14:00 ●4/29(火祝)13:00

## アイデン&ティティ

2003年12月20日公開作品。中央線沿線のユースカルチャーを象徴する1本。初日の舞台挨拶付き上映の切符を求める長蛇の行列を整理するためバウスの屋上を開放したことも。2003年/日本/118分/35mm 提供:東北新社 監督:田口モロロ/原作:みうらじゅん/出演:峯田和伸、麻生久美子、中村獅童、大森南朋、マギー ©「アイデン&ティティ」製作委員会



●4/27(日)16:20 ●5/1(木)13:30

## グーグーだって猫である

2008年9月6日公開作品。井の頭公園、サトウのメンチカツ、ハーモニカ横丁から桜園かずおまで、これでもか!というくらい吉祥寺の名所が登場。2008年/日本/116分/35mm 提供:アズミック・エース 監督:犬童一心/原作:大島弓子 出演:小泉今日子、上野樹里、加瀬亮 ©2008「グーグーだって猫である」フィルム・コレクティブ



●4/28(月)13:20 ●4/30(水)11:30

## 書を捨てよ町へ出よう

いつの時代も世を問わず寺山修司の作品は受け入れられる、とはバウス社長の弁。番組編成に行き詰った際は「げんかつぎ」に寺山作品を多く上映したことも。1971年/日本/138分/35mm 提供:東宝 監督:寺山修司 出演:佐々木英明、斎藤正治、小林由起子、平泉征 ©1971 テレキマワーナー/ATG



●4/28(月)15:45 ●5/2(金)11:30

## 吉祥寺の朝日奈くん

原作は小説家・中田永一。2011年3月の震災直後、静まり返った吉祥寺を中心に撮影された。バウスでもロケが行われ従業員もエキストラ出演した1本。2011年/日本/91分/BD 提供:スロウラー 監督:加藤章一/原作:中田永一 出演:桐山隼、星野真里、栗岡 ©2011 Eichi Nakai /「吉祥寺の朝日奈くん」製作委員会



●4/29(火祝)11:00 ●4/30(水)14:00

## シド・アンド・ナンシー

これまでアレックス・コックスの作品はすべて上映してきたバウスシアター。08年には「サーチャーズ2.0」を引っ掛け来日した監督と俳優・田口モロロのトークイベントも開催した。1986年/イギリス/113分/35mm 提供:アダンソニア 監督:アレックス・コックス 出演:ゲイリー・オールドマン、クロエ・ウェッブ ©2012 A&A 2.0の花」製作委員会



●4/29(火祝)15:30 ●5/1(木)11:00

## あんてるさんの花

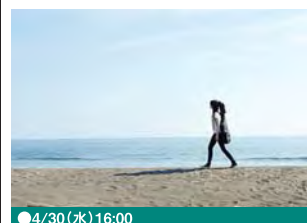
「吉祥寺で映画を撮ろう」をスローガンにした映画製作会社・武蔵野映画社による地ムービー第三弾。バウススタッフも武蔵野市や市内商業施設など積極的にアプローチし町興しに貢献。2012年/日本/93分/BD 提供:武蔵野映画社 監督:宝来志昭 出演:小木茂光、徳秀典、佐藤めぐみ、田中美里 ©2012 A&A 2.0の花」製作委員会



●5/2(金)14:20

## あまっちょろいラブソング

2010年9月4日公開作品。宮田宗吉監督の商業映画デビュー作「バカバカソング」を上映したのがきっかけで本作の製作がスタート。インディペンデントながらもバウスで独占公開した。2010年/日本/97分/BD 提供:武蔵野映画社 監督:宮田宗吉 出演:下石奈緒美、山中崇、小林且久、久住昌之 ©1986 Handmade Films (1985) Partnership



●4/30(水)16:00

## the fighting men's chronicle エレファントカシマシ デレクタクサーカット

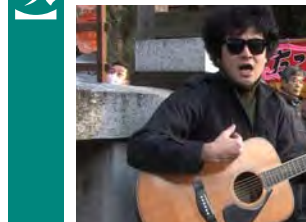
エレカシは92年2月5daysライブやドキュメント映画「扉の向こう」を初上映したのがバウス。山下監督はデビュー作「どんん生活」から「もらとりあむタマ子」まで数多く特集上映を行った監督のひとつ。2013年/日本/123分/BD 協力:エムオン・エンタテインメント フェイス ミュージックエンタテインメント ユニバーサル ミュージック



●5/2(金)16:40

## ライブテープ

2009年12月26日公開作品。2008年末にバウスで開催した「ホットファズ」公開記念のトークショーゲストで来館した監督が帰り道に本作を想起した、バウスなくしては誕生しなかったかもしれない作品。2009年/日本/74分/DV-CAM 提供:SPOTTED PRODUCTIONS 監督:松江哲明/音楽:前野健太/出演:前野健太、長澤つぐみ ©Tip Top 2009



●5/1(木)20:35 ●5/14(水)17:00

## BLUE ブルー

デレク・ジャーマン監督「エンジェリック・カンパセーション」(アップリンク配給)を本邦初公開したのがバウス。同監督の特集上映の際には主演女優としてティルダ・スウィントンが来館したことも。1993年/イギリス・日本/75分/35mm 提供:アップリンク 監督:デレク・ジャーマン ナレーション:ジョン・クエンティン、ナイジェル・テリー、ティルダ・スウィントン ©1993 BASILISK COMMUNICATIONS ©1994 UPLINK CO.



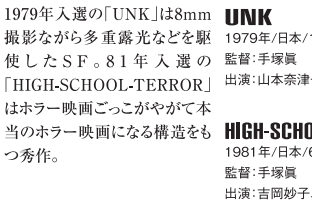
●5/8(木)21:00 ●5/20(火)14:00

# 【PFF(ぴあフィルムフェスティバル)特集】

バウスシアターでは、PFFとの共催企画がたびたび行なわれた。88年の夏の「ALL THAT PFF / PFF10年の全てを見せる12日間」、89年春の「インディーズ・スパージャム'89」では、売り出し中の若手監督たちの作品がバウスに勢揃い。バウスとPFFとの共催による、「オランダ映画祭」、「カナディアンニューシネマ」、「UK90 プリティッシュ・フィルム・フェスティバル」、「大インド映画祭」などでは、貴重かつ華やかで賑やかな映画の数々がバウスのスクリーンを彩った。そんなPFFの思い出を込めて、PFFスタッフによるセレクションの7作品を。

## ピクニック

1993年度PFF入選作品。ミュージシャンを目指しながら気楽に過ごす兄弟の元に、突如現れた若い女性が巻き起こすドラマ。奥原監督はバウスシアターの映写技師として勤務していた時代もある。1993年/日本/70分/8mm→デジタル 監督:奥原浩志/出演:榎井理子、近藤太郎、奥原浩志



●5/7(水)13:20



●5/7(水)13:20

## UNK

1979年入選の「UNK」は8mm撮影ながら多重露光などを駆使したSF。81年入選の「HIGH-SCHOOL-TERROR」はホラー映画ごっこがやがて本当のホラー映画になる構造をもつ秀作。

1979年/日本/15分/8mm→デジタル 監督:手塚眞 出演:山本奈津子、UFO 1981年/日本/6分/8mm→デジタル 監督:手塚眞 出演:吉岡妙子、坂井くみ子



## ウィズネイルと僕

映画ファンの間ではカルトの人気を誇るものの、1991年にバウスシアターで限定的に上映されたのみ。ビデオやDVDも未発売となっていた本作が、製作から27年/日本初公開から23年の時を経て、遂にスクリーンに甦る。プロデューサーはジョージ・ハリスン。「イス・イット・ヘヴン・イット?」(84)に続き、バウスシアターが配給を手がけた作品で、近年でも「もう観ることはできないのか?」と劇場ヘリクエストが寄せられることが多かった。ストーリー:1969年、「スウィング・ロンドン」の狂騒も陰りの気配を見せ始めた頃。役者志望の「僕」とウィズネイルは、アルコールとドラッグの日々にうんざりしつつも解決の道はなく、何と何のステップをと、ウィズネイルの叔父のコーチングへと向かう。もちろんそこでも何かが変わるわけではない。いくつもの奇妙な出来事の果てにふたりは再びロンドンへと向かう。そのどうにもならない閉塞感、ある時代の終わりを確実に浮かび上がらせていく。監督の自伝的作品とも言われている。

1987年/イギリス/107分/35mm 提供:日本出版販売 監督:ブルース・ロビンソン 製作総指揮:ジョージ・ハリスン 出演:リチャード・E・グラント、ポール・マクガラン ©1986 Handmade Films (1985) Partnership

## 突撃! 博多愚連隊

1978年度PFF入選作品。劇場用長編映画「高校大バニク」を世に送り出した直後に完成。故郷・博多を舞台に石井監督が挑んだバイオレンス・アクション。泉谷しげるも出演。1978年/日本/67分/8mm→デジタル 監督:石井岳龍 出演:志水正義、八谷富夫

## 教訓 I

1981年度PFF入選作品。俳優・監督の利重剛が高校時代に制作した本作は大島渚の推薦を受けPFFに入選した。とある高校で突然徴兵制が敷かれ他校との戦争に発展する風刺ドラマ。1980年/日本/35分/8mm→デジタル 監督:利重剛 出演:鶴田雄次郎、加瀬文照、彦坂誠

## ハイウェイ61

「ロードキル」や「ピクチャー・クレア」などで知られるカナダ出身のブルース・マクドナルド監督作品。ひょんなことから事件に巻き込まれた男女がニューオーリンズを目指すロード・ムービー。1991年/カナダ/102分/35mm 監督:ブルース・マクドナルド/出演:ドン・マクケラー



●5/8(木)13:20



●5/6(火祝)13:20

## ダーク・スター

鬼才カーバンクル監督による元祖SFサーフィン映画。1981年にPFFにて配給、本邦初公開となった。監督自身による作曲で随所に挿入されるテーマソング「Benson Arizona」が涙を誘う。1974年/アメリカ/83分/35mm 監督:ジョン・カーバンクル 出演:ブライアン・ナレド、ドレ・パビッチ



●5/9(金)13:20

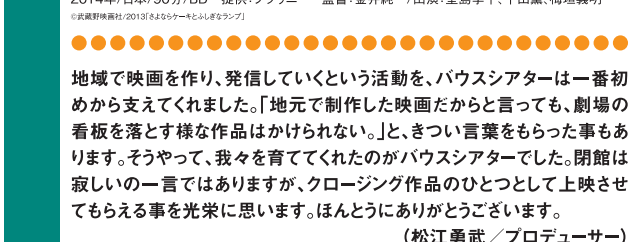
# 【ロードショー】



●5/3(土祝)~31(土)ロードショー

## さよならケーキとふしぎなランプ

夜更けのカフェをやさしく照らすランプの灯りが 人と人、そして心と心をつないでゆく。ぴあ初日満足度ランキング1位を獲得した「あんてるさんの花」に続く、むさしのファンタジーシリーズ最新作。主演の此野岸(このぎし)役には、今回が俳優初挑戦のミュージシャン・堂島孝平。パティシエを目指すヒロイン・波奈美アキ役に、平田薫。アキの父・和義を演じるのは梅垣義明。監督は、新鋭・金井純一。吉祥寺の街を舞台に贈る、珠玉のヒューマン・ファンタジーが誕生した。2014年/日本/90分/BD 提供:プラウニー 監督:金井純一/出演:堂島孝平、平田薫、梅垣義明 ©武蔵野映画社(2013)「さよならケーキとふしぎなランプ」



●4/26(土)~5/9(金)、シアター3にてロードショー